

辺野古通信

第14号 2007年8月21日

発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座

辺野古事前調査、高江へリパッド工事強行を許すな!

辺野古及び高江の闘いに引続きカンパを

■前号でお伝えした東村高江のヘリパッド建設工事が7月から強行され、私たちが5月に案内していただいたN4地区(写真左)ゲート前で座込み阻止行動が続いています。また辺野古の緊迫した状況も変わっていません。カンパは辺野古と高江に届けていきます。引き続きご協力を!これまでのカンパの累計は878,821円です(8月19日現在)。

防衛省、辺野古アセス方法書強行送付!

■防衛省は8月7日、沖縄県・名護市・宜野座村に対し、辺野古沖基地建設に係るアセス方法書を提出。計画図の中には作業ヤード位置図などが示され(右上。琉球新報)、豊かな珊瑚群落のある大浦湾が作業ヤードとして埋め立てられることに。仲井真知事、島袋名護市長らは「前提条件が整っていない」として受取りを拒否していますが・・・

9月29日(土)に沖縄県民大会を開催!

■沖縄戦の強制集団死への「日本軍関与」の記述を削除する教科書検定意見の撤回を求める動きは、沖縄県議会で異例の2回にわたる意見書採択に続き、とうとう自民党も含めた超党派による県民大会開催の動きになっています。ヤマト側ではほとんど報道されなくなっていますが、沖縄の人々の怒りは高まっています。県民大会は9月29日(土)15時から宜野湾市海浜公園で開催されます。



9.15映画『ひめゆり』上映会に参加を!

■沖縄講座は9月15日のドキュメント映画『ひめゆり』上映会に賛同・協力しています。同封のチラシをご覧ください。

慌ただしさ増す神奈川の米軍再編強化!

■神奈川でも米軍再編を巡る動きが慌ただしくなっています。8月10日、原子力空母配備のための横須賀軍港の浚渫工事が強行されました。またキャンプ座間への米陸軍第一軍団司令部の移駐=新司令部発足の動きも具体化してきました。20日前後にも「移行チーム」が発足することが公式発表されました。地元の意向を無視した動きに対し、21日に基地撤去をめざす県央共闘など3団体は、約50名でキャンプ座間に対する緊急抗議要請行動を展開しました。

■沖縄講座HPに、ぜひ一度アクセスを!

<http://www.k3.dion.ne.jp/~okikoza/>

ドキュメント『ひめゆり』上映会

9月15日(土)13時から

会場 神奈川公会堂(JR東神奈川駅5分)

お話 吉村秀子さん(東京ひめゆり同窓会)

13年の時をかけ、生存した女生徒22人の言葉を丹念に紡いだ作品。

大人前売 900円(当日 980円)

大学生・高校生 700円(800円)

中学生以下 無料

主催 実行委員会

原子力空母配備のための浚渫工事糾弾！8・10横須賀集會に2600人



8月10日、在日米海軍横須賀基地近くにあるヴェルニー公園で、「空母母港化 34 周年・空母キティホーク横須賀基地母港化 9 周年抗議！原子力空母配備撤回を求める8・10 全国集會」が開催され、全国各地から 2600 人参加。この日に公園に隣接する軍港の中で原子力空母配備のための浚渫工事が始められたことが報告され、怒りの声が渦巻きました。集會では最初に世界平和を願う長崎の声を国連に届けている「高校生平和大使」に神奈川から選出された高村千紗さんが特別アピール(写真右)。横須賀中央までデモ、基地ゲート前では怒りのシュプレヒコールを浴びせました。



抗議声明

本日、高見澤横浜防衛施設局長が座間、相模原両市を訪れ、米陸軍第一軍団を改編した新司令部部分遣隊のキャンプ座間への移駐を通告してきた。(中略)日本の軍国主義時代に半強制的に接收されて以来、70年の長きにわたって、両市は多大な迷惑と被害を被ってきた。市民も多くの不自由、度重なる迷惑、被害を押しつけられてきた。だから、この3年余、市長を先頭に市民ぐるみの反対運動が取り組まれてきたのである。今回の通告は、両市の長年の願いを踏みにじり、市民の苦しみを恒久化するものであり、決して認めることはできない。◇昨年5月の日米両政府の合意によれば、今回の分遣隊の移駐に続き、司令部本隊の移駐、さらに陸上自衛隊中央即応集団司令部の移駐が計画されている。「米軍再編」の名の下に、キャンプ座間を日米同盟の要衝、広域作戦司令部として様変わりさせようとしている。対テロ戦争の大義名分で始めたアフガン戦争、イラク戦争は今や泥沼化の様相を強めている。新司令部のキャンプ座間への移駐は、こうした米国の誤った戦争政策に日本が今まで以上に組み込まれることを意味するものだ。ここ神奈川では、横須賀基地への原子力空母配備の受け皿づくり、浚渫工事の開始、池子米軍住宅の増設計画、厚木基地での違法爆音の継続と、基地の強化・恒久化の動きが目白押しである。どれもこれも米国の軍事戦略・戦争政策を支えるものばかりである。もう基地の強化・恒久化は懲り懲りである。◇私たちは改めて、日米両政府にキャンプ座間への新司令部の移駐計画の撤回を求める。撤回しないのであれば、今まで以上に「新司令部歓迎せず」の声、運動を大きくしていくつもりだ。この3年余、私たちは新司令部の移駐など基地強化に反対する行動を重ねてきた。(中略)今後も引き続き、「新司令部歓迎せず」の意思のもと、新司令部本隊の移駐、陸自中央即応集団司令部の移駐を阻止する行動を強めていく決意である。

2007年8月14日
神奈川平和運動センター・基地撤去をめざす県央共同会議・第1軍団の移駐を歓迎しない会

集會アピール

去る7月24日、ジェームズ・ケリー在日米海軍司令官は、空母キティホークの後継艦となる原子力空母ジョージ・ワシントンの横須賀基地への配備が来年8月下旬となるの見通しを明らかにしました。/原子力空母母港化反対・配備計画撤回を求める闘いは正念場の1年をむかえます。/昨年6月、原子力空母配備容認に転じた蒲谷横須賀市長は市民生活の安全確保の役割を放棄し、米海軍の一方的な「安全性キャンペーン」の担い手と化しています。こうした市長の姿勢への批判は、昨秋、横須賀現地ですすめられた『原子力空母母港化の是非を問う住民投票条例』制定を求める直接請求への4万を超える市民の賛同として示されています。/横須賀の運動を支援し、共に闘う輪は全県・全国へと着実に広がってきています。/今まさに始まろうとしている原子力空母配備のための浚渫工事を止めることを求める裁判には、横須賀や近隣はもとより神奈川県下・首都圏から800人を超す人々が原告として結集しています。/原子力空母配備は米海軍の出撃拠点としての機能をより高め、母港化を恒久化するものです。同時に横須賀・三浦半島に止まらず、東京湾一帯、首都圏に原子力事故、災害の危険をもたらします。活断層の走る三浦半島に軍事機密のベールに覆われた原子炉がやって来るのです。/さらに今、神奈川では、キャンプ座間への米陸軍第1軍団司令部と自衛隊の中央即応集団司令部移駐、相模総合補給廠の新たな機能強化などが計画され、池子の米軍住宅増設などと合わせて基地強化が際立っています。横須賀基地の最新鋭イージス艦と自衛隊による「MD体制」の構築も加速し、自衛隊武山基地へのPAC3ミサイル配備も迫っています。/こうした米軍再編による基地強化、日・米軍事一体化との闘いは、沖縄で、岩国で、そして全国各地で粘り強く展開されています。/憲法改悪を企て、日・米軍事一体化を推進する安倍政権への国民大衆の怒りが参議院選挙で爆発しました。この成果を背景に、全国の仲間と運動を前進させましょう。/横須賀への米空母の配備は34年前のミッドウェーから始まりました。当時、3年程度と言われた「母港化」が3代におよび今日まで続いていることに怒りをもって、抗議します。/空母艦載機の爆音被害の解消を求めて県央・厚木基地周辺では第4次の裁判闘争が準備されています。これを私たちは支持し、連帯します。そして『将来に亘ってない…』と政府が言明したはずの原子力空母配備計画の撤回を強く要求します。

横須賀市民、県民のみならず、共にたたかきましょう。